

こうきた 7月号

杉並区立高円寺北子供園



一人一人の健やかな成長をめざして

園長 須田 なぎさ

高円寺北子供園の特別支援教育は、特別支援コーディネーター(令和3年度は川副副園長)を中心に、関係諸機関や家庭との連携や職員の研修により、個々に応じた支援を行っています。また、学級の一員として、共に生活をする中で育ち合う素地を培い、幼児の社会性や豊かな人間性を育むことを目指しています。

特別支援教育というと、なにか障害がある子のためのもものと捉えがちですが、子供園では、幼児一人一人の言動から、こだわり、つまずき、不得意、困っていることなどの特性を捉えて、生活しやすくなるように支援するようにしています。

個別の支援をすることに加えてさらに、学級という集団の中で生活することを通して、他の幼児と関わり、共に育つ喜びを味わえるように環境や援助を工夫しています。

例えば、子供園では、一日の流れの中で、集まって先生の話聞く時間があります。子どもたちは、集まると先生が楽しいことをしてくれるということが分かって、集まってきます。

しかし、その日その時の状況によって、参加の仕方は、一人一人違います。集中してじっと聞いている子もいます。一方で、他に気をとられ気になったことに向かって立ち歩く子、先生の絵本を見たくて近くに寄ってくる子、先生の話に反応してすぐおしゃべりを始める子、じっと座っているけれど先生の話とは違うことを考えている子などなど。

このような行動は、集団生活の中で“みんなと一緒に行動ができない子”と見えることがあるかもしれませんが。私たちは、子どもたちの言動を捉えて、「どうしてそうなるのか？」原因を探り、どのような言葉をかけたらいいか、どんな環境にしたらいいかを考えるようにしています。十人十色。Aちゃんにうまくいった援助が、Bちゃんに通用するとは限りません。先生たちも悩みながら、援助しています。

また、子供園では、年4回外部の特別支援教育の専門家に来ていただき、指導を受ける機会があります。幼児の行動を専門家にみていただくことで、どこにどのように困っているかが明確になり、具体的な援助の仕方がみえてきます。

幼児の言動の背景にある原因を探り、対応を大人が変えることで、成長につながるきっかけを見付けることは、園でもご家庭でも一緒かもしれません。ご家庭でも、「何回言ってもいうことを聞かない。」「どうして、こんなことするのかしら？」と対応に困ることがありませんか。お子さんの成長は、らせんを描くように大きくなるので、大人の考えている成長とは違う姿に見えることもあります。子育てをしていて困ったときには、ひとりで悩まず、おしゃべりしましょう。子供園とご家庭とで、お子さんにぴったりの援助を見付け、健やかな成長を支えていきましょう。

《7月の保育》

★年少組

子どもたちは、空き箱や小さい画用紙、芯など、身近な素材を使い、思いついたものを作ることを楽しんでいます。また、友達のしていることにも興味をもち、真似たり、加わって遊ぼうとしたりする姿も見られるようになってきました。

今月は、遊びの中で、友達と触れ合ったり関わったりする楽しさを感じながら、自分の思いを動きや言葉に表していけるようにしていきます。また、学級のみんなで簡単なルールのある鬼遊びや体操、表現遊びなどを楽しみながら、自分なりの動きを出す楽しさを感じられるようにしていきます。

プール遊びでは、約束を知り守りながら、水の心地よさを感じ、伸び伸びと水の中で動くことを楽しめるようにしていきます。

また、七夕に向けては、伝統行事に親しみながら、飾り作りを楽しみ、自分で作れた嬉しさを感じられるようにしていきます。

★年長組

今月は、自分なりのめあてに向かって取り組む活動が多くあります。

七夕飾り作りでは、一人一人がじっくりと取り組み、完成までの見通しをもって製作を進めていきます。自分なりに工夫したり、友達から刺激を受けたりしながら楽しんで取り組めるようにしていきます。

プール遊びでは、水に触れる気持ちよさや開放感を味わいながら水に慣れていき、顔を水につける、水の中で体を伸ばす、浮くなど様々な動きを経験しながら自分なりのめあてをもって伸び伸びと体を動かせるようにしていきます。

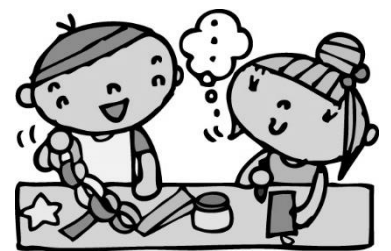
また、年少組の時から大切に育ててきたジャガイモや、テラスで育てているキュウリ、ピーマン、ナスの収穫をし、みんなで食べる喜びも感じられるようにしていきます。

《園からの連絡》

子供園は、特別支援に関する外部の専門家が年4回相談に来ています。支援が必要なお子さんに関するアドバイスや、分かりやすく過ごしやすい手立てや環境について職員が学ぶ機会になっています。

今回の相談の中で、『1週間続けてお子さんをグューっと抱きしめ、愛情を確認すると、子どもが安心・安定し、子供園での生活がよりよくなる！』というお話を聞きました。このことはぜひご家庭で試していただきたいと思いました。効果があるのか、ないのか、ぜひやってみて、お話を聞かせてください。

(別紙「だ〜いすき&だっこ週間」参照)



副園長（特別支援コーディネーター） 川副 園美



食育もりもり

お手伝いをしよう！ ～こんなことができるよ～

洗う～ジャガイモやニンジンなど、形がしっかりしたものを手やたわしでこする。
皮をむく～ピーラーなどの道具を使ったり、茹でて冷ましたジャガイモの皮むき、
枝豆のさやむきをしたりする。

ちぎる～レタスや柔らかい葉菜類など。

混ぜる～サラダや和え物など。

こねる～ハンバーグの生地など。

お米をとぐ

自分が手伝ってできた食事は格別美味しいものです。「食」への興味が深まるきっかけにもなりますので、時間のある時に、是非一緒に親子でお料理タイムを楽しんでください。

子供園の畑で野菜が育っています！

たんぽぽ組がテラスで育てているトマトが実をつけ始めました。まだ青いトマトのため、「これがトマト？」と大きく赤くなることを楽しみにしています。

にじ組はテラスでは、ナス・キュウリ・ピーマン。畑では、ジャガイモ・サツマイモに毎日交代で水をあげたり草むしりをしたりしています。畑で育てているジャガイモは、大きくなり収穫間近となりました。大きなジャガイモができているか、楽しみです。

ジャガイモは、エネルギー源として優れています。ビタミンC・ビタミンB1・B6などのビタミン類、カリウムやマグネシウムなどのミネラル、食物繊維なども含まれています。

子どもたちが好きなフライドポテト、粉ふき芋、ジャーマンポテトなど、ジャガイモを使った料理をお弁当に入れてはいかがでしょうか？